

受講料と受講生のニーズについて

高岡短期大学開放センター 助手 藤 田 徹 也

1. はじめに

本学は、昭和63年度より放送公開講座（テレビ講座）を開始し、今年度は第6回目の放送公開講座「企業経営とコンピュータ」を実施した。本学は、放送公開講座を大学開放の一環として捉え、積極的に取り組んでいる。その理由の一つは、放送公開講座が時間的・空間的な制約にとらわれない学習の場を提供し、高まりつつある生涯学習に対するニーズに応える可能性を持っているからである。

本学では、平成3年度より受講生から正式に受講料（テキスト代を含む）を徴収することになった。将来、放送公開講座を有効な遠隔教育の方法として発展させていくためには、受講料を支払うという前提のもとでの、受講生の放送公開講座に対する意識、および受講生が大学に期待するサービスを把握することが不可欠である。

表1 6年間の経費負担の経緯

年度	科目名	テキスト代	受講料
63	工芸の世界	2,000	—
元	みじかなコンピュータ	2,300	—
2	木からのメッセージ	2,300	—
3	いま、みつめよう国際化	—	3,350
4	デザインの時代	—	3,350
5	企業経営とコンピュータ	—	3,350

本研究では、受講生に対するアンケート調査および一般公開講座受講生との比較等によって、受講料に関する受講生の意識を調査・分析し、その結果を考察する。

2. 研究の方向と内容

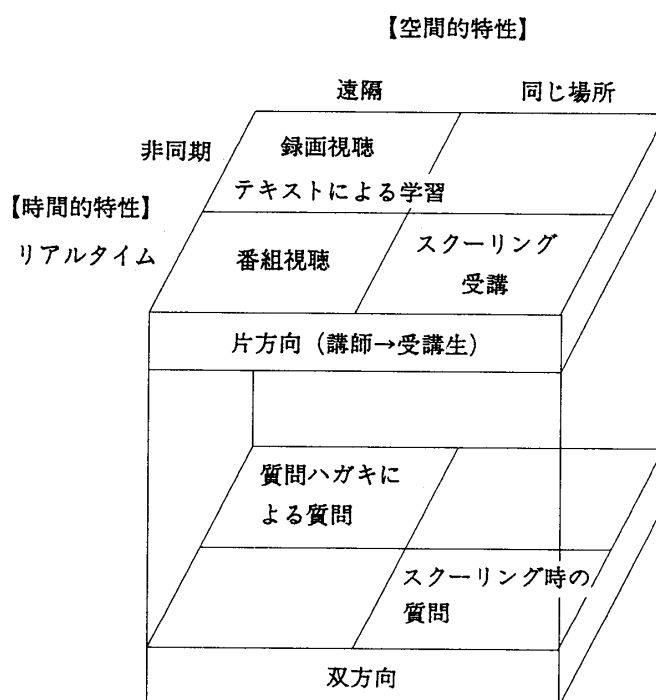
2. 1 放送公開講座における学習活動と受講生のニーズ

本学の受講生の放送公開講座における学習活動を、空間的な特性、時間的な特性、および双方向性に着目して整理したものを図1に示す。

放送メディアはリアルタイム・片方向の特性を持っている。また、受講生に見られる自主性の発達、興味・関心の多様化、学習条件の種々の制約から、学習形態は一斉授業形式よりも、個別学習形式が中心となっている。したがって、受講生の学習活動は、番組視聴と録画視聴・テキストによる学習とが中心になっている。これらの学習は個々の受講生が互いに離れた場所

で行い、また、講師から受講生への一方的な教授が行われる。

図1 放送公開講座における学習活動



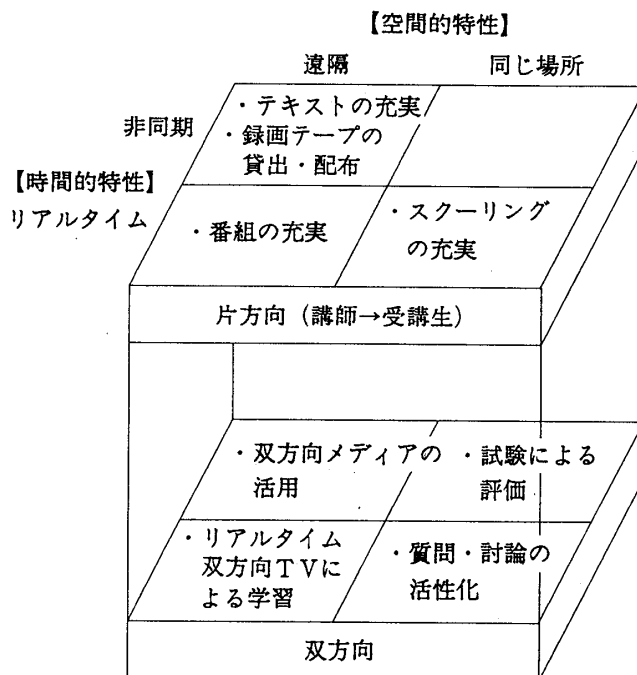
スクーリングはこのような遠隔・片方向の学習の欠点を補うものとして位置付けられている。すなわち、質問・討論によって講師と受講生間および受講生同士の双方向のコミュニケーションを図る目的で行われている。しかし、このような双方向コミュニケーションは、スクーリングの時間が限られていることもあり、質問・討論はなかなか発展せず、多くは講師からの片方向の講義になっている場合が多いのが現状である。また、もう一つの双方向の通信手段である、質問ハガキ（テキストに綴じ込み）の活用も少ない。

このような現状に対して、受講生はどのようなニーズを持っているのだろうか。このことを明らかにするために、時間・空間・方向の各特性に応じて、放送公開講座の学習活動を充実させる可能性を持つ要素例を図2に示す。

図2の各要素を実際のサービスとして受講生に提供するためには、下記のような面での検討および問題の解決が必要である。

本研究における重要な課題は、図2に示されている「双方向の学習活動の充実」「在宅学習の充実」「教材の充実」等の各特性に対する受講生の志向を明らかにし、上記の諸条件を踏まえた上で、受講生にどのようなサービスを提供していくことが最も適切であるかについて考察することである。

図2 放送公開講座の可能性



2. 2 今年度の調査・研究の観点

前節の方針を踏まえ、今年度は以下の3項目を調査の観点として設定した。

(1) 現行の受講料に対する評価

現行の受講料の金額に対する感想および、その感想を構成している要素を調べる。

(2) 放送公開講座に対する希望

今後の放送公開講座に対する希望として、双方向の学習、在宅学習、教材の充実、学習成果の単位としての評価等に対するニーズを調べる。

(3) 一般公開講座との比較

本学が実施している対面型の公開講座（一般公開講座）の受講生と放送公開講座の受講生の結果とを比較する。

受講生へのアンケート調査のうち、本学が独自に実施する部分にこれらの項目に関する調査項目を設定した。なお、今年度から、共通実施分のアンケート項目が細分化され、上記(2)の項目に該当する項目が、設問の各部分に含まれることとなった。このため、本学が独自に実施する調査項目として、上記(1)に関する項目を設定した。

また、一般公開講座受講生のアンケートにも、上記(1)、(2)（受講料の金額に関する感想・公開講座に対する希望）の調査項目を設定し、アンケートを実施した。

(1) 受講生の意識と学習指導

スクーリング時の質問・討論の拡大等、双方向の学習活動が充実したものになるためには、受講生により積極的な講座への参加が求められる。また、講師にとっては受講生からのフィードバックを利用した学習指導が可能になり、テキストおよび番組による学習指導と同様に、放送公開講座を構成する重要な要素となる。

現在、講師と受講生との双方向コミュニケーションの手段として、郵便、FAX 等が利用されている。遠隔双方向コミュニケーションをより有効にするメディア（パソコン通信、デジタル電話、双方向CATV等）による新しい通信環境が整備されつつある。

録画番組の配布等のサービスの実施に際しては、人的コスト等を含めた経費が大きくなる。

Q10 受講料のことについておたずねします

1つだけ選んでください。

1. 高い 2. やや高い 3. 適切である 4. やや安い 5. 安い

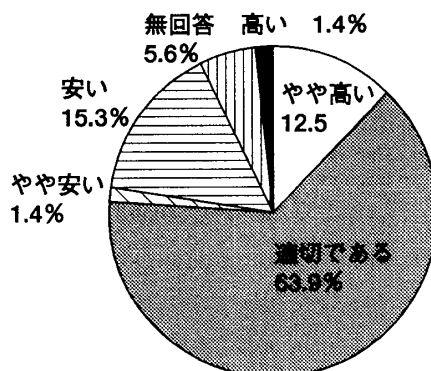
該当すると思われるものをいくつか結構ですからお答えください。

1. 番組の内容 2. 放送回数・時間（30分×9回） 3. テキストの内容
4. スクリーニングの内容 5. 学習の満足感 6. 他の機関が主催する講座と比較して
7. その他（ ）

今年度の放送公開講座の概略を以下に示す。

科 目 名	「企業経営とコンピュータ」
受 講 者	146 名
実施回数・時間	9 回・30分
テ キ ス ト	全員配布 (A 4 版、116 頁、白黒)
スクーリング	4 回実施 平均出席率 29.9%
アンケート回答者	72名 (回収率 49.3%)

図 4 金額に対する感想

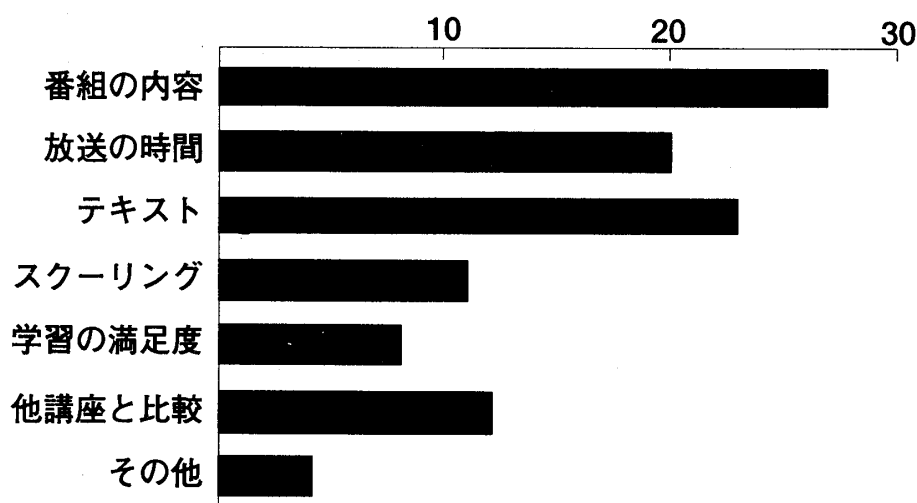


— 154 —

受講料に関する調査は、今回を含めて3回であり、金額について「適切である」とする回答が63.6%（H3）、70.3%（H4）、69.3%となり、現行の受講料3,350円は、受講生に概ね妥当な金額として受け入れられていることがうかがえる。

受講料に対する感想を選択した観点では、「番組の内容」37.5%（H4 24.2%）、「テキストの内容」31.9%（H4 38.5%）、「放送時間・回数」27.8%（H4 36.3%）を挙げた受講生が多かった。受講生が受講料の対価の基準として、主に番組内容および教材としてのテキストを重視していることがわかる。

図5 金額に対する感想を選択した理由



3. 2 一般公開講座との比較

図6 金額に対する感想（一般公開講座）

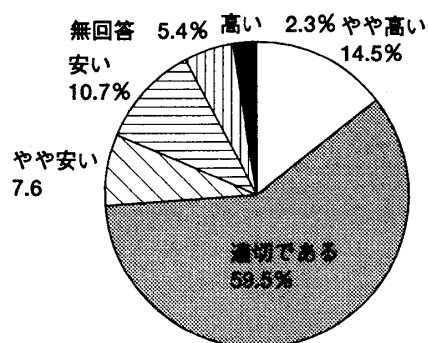
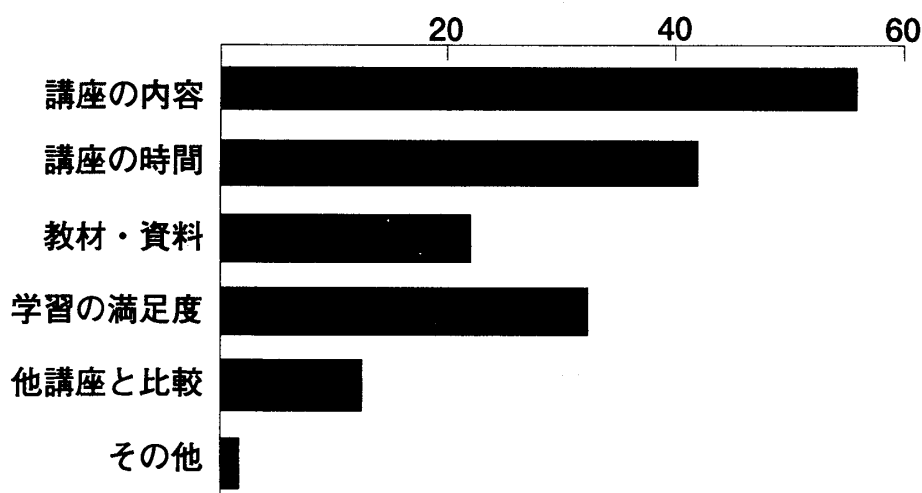


図6・図7は、本学の実施している一般公開講座（11講座）の受講生に対して、受講料の金額に対する感想、および金額に対する感想を選択した観点についてのアンケート集計結果である（ただし、一般公開講座の受講料は、実施時間数に応じて設定されている。）。

受講料の金額に対する印象では、「適切である」59.5%（H4 64.3%）、「高い」「やや高い」16.8%（H4 10.5%）、「安い」「やや安い」18.3%（H4 23.8%）と、放送公開講座とはほぼ同じ分布を示しているが、受講料に対する感想を選択した観点は、「講座の内容」42.7%（H4 32.9%）、「講座の回数・時間」32.1%（H4 46.2%）、「学習の満足感」24.4%（H4 26.6

%) を挙げた受講生が多く、「教材・資料」16.8%（H4 18.9%）の比率が低くなっている。一般公開講座では、受講生が講師との直接的な対面による学習により高い価値観を持っていることが、受講料の対価に関する調査から裏付けられた形となっている。

図7 金額に対する感想を選択した理由（一般公開講座）



3. 3 各大学共通部分のアンケート調査から

表2 放送公開講座に応募する際に考慮した条件（問1-5）

	あてはまる	ややあてはまる	計
学費が手ごろである	25.0%	43.1%	68.1%
家・職場で学習できる	34.7%	41.7%	76.4%

表3 今後、利用したい学習機会（問4-2）

	あてはまる	ややあてはまる	計
放送公開講座	54.2%	37.5%	91.7%
テレビ・ラジオ講座	30.6%	51.4%	82.0%
一般公開講座	40.3%	41.7%	82.0%
放送大学	18.1%	44.4%	62.5%

表4 テキストについて（問2-4、問3-1）

あまりじっくりと目を通さなかった	27.8%（肯定は2/3）
参考文献や関連資料はできるだけ手に入れた	15.3%
ねらいや要旨を箇条書きに	65.3%
図表や写真がもっとあると良い	55.6%
専門的な用語集的なものを	55.5%

前述のとおり、今年度から受講生に対するアンケート調査が更新され、各大学共通部分の質問項目は細分化された。アンケート集計の結果、本テーマ「受講料と受講生のニーズ」に関する、いくつかの特徴的な回答が見られた。

「放送公開講座に応募する際に考慮した条件—学費が手ごろである」（問1-5-08）という項目に対する回答は、「あてはまる」25.0%、「ややあてはまる」43.1%と、肯定的回答をあわせると、全体の約2/3となる。これは、この項目内では「自分の関心のある内容だった」「家・職場にいながらにして学習できる」に次ぐ高い肯定率を示しており、学費（受講料）が受講生が応募する有力な条件の一つとなっていたことがわかった（表2）。

「今後利用したい学習機会」（問4-2）では、「放送利用の大学公開講座」「テレビ・ラジオの講座」という項目に対する肯定的回答（「あてはまる」および「ややあてはまる」とする回答）が、それぞれ91.6%、82.0%と高い。今年度の調査から新設された「放送大学」という項目に対する肯定的回答も62.5%と比較的高いことから、勤務等の都合で時間的制約の多い社会人が、在宅型の学習を指向している傾向がうかがえる（表3）。

3. 1節で述べたとおり、受講料の対価としてテキスト（印刷教材）を重視する受講生が最も多い。テキストに関する受講生の意識および要望を見てみよう（表4）。「テキストにどのように目を通したか」（問2-3）という項目については、約2/3の受講生が「じっくり目を通した」と回答しているが、「あまりじっくりとは目を通さなかった」という回答も27.8%と多かった。また、「放送公開講座をどのように聴講したか」（問2-4）のうち、「参考文献や関連資料はできるだけ手に入れた」と回答した受講生は15.3%にとどまった。は、現在のテキストに付記されている参考文献および関連資料は、講師が執筆にあたって参照した専門的な資料である場合が多い。そのような専門的な資料だけではなく、一般の受講生が学習を深めていく際に適した参考書などをも含めるような配慮が、より高度な学習を求める受講生の声に応える上でも有効であると考えられる。「テキストに対する意見」（問3-1）では、「ねらいや要旨を箇条書きに」「図表や写真がもっとあると良い」「専門的な用語集的なものを」という項目に対する肯定的回答が、それぞれ65.3%、55.6%と高く、これらの面からのテキストのより一層の充実が求められている。

4. おわりに

前章までの調査結果および考察により、受講料の金額に対する意識、受講料の対価としての価値観、および今後の受講生サービスに対する志向について、何点かの事項が明らかになった。その主なものは

- (1) 現行の受講料の金額設定は適切である。
 - (2) 受講料の対価として、印刷教材を重視する傾向がある。
 - (3) 「在宅学習の支援・充実」に重点を置いたサービスが求められている。
- である。

これまで、この「受講料と受講生のニーズ」に関する研究を3年間継続してきた。前述の通り、受講料は受講生が受講しようとする際の一つの有力な条件となっていることがわかる。しかし、受講料との直接的な結びつきから受講生のニーズを捉えることは難しい面がある。

来年度以降は、受講料に関する調査については、多年度受講生との比較などによって引き続き調査を行う予定であるが、同時に、放送公開講座に関するさまざまな試み（テキスト、スクーリングの改善、双方向メディアの活用）による受講生のニーズの喚起についても研究を進めていく必要性を感じている。